



青き楓

島高だより
平成23年11月号
(通巻第68号)
長崎県立島原高等学校
編集：情報図書部

校長室から

「親ばなれ、子ばなれと心の安全地帯」



校長 辰田 幸敏

若いころ、長崎の高校に勤務していた時、子どもと自分との区別がつかなくなっている(母)親に時々出会った。子どもをこよなく愛し、教育に熱心で経済的にもめぐまれ、何でもできる優秀なお母さんである。

子どもの成功は親の成功、子どもの失敗は親の失敗、何としても成功させなければならない。そこには「子どもは親の所有物」とする思想が根底にあると思われてならなかった。「成長しよう」「独り立ちしよう」とする子どもの芽を摘んでしまっているようだった。

これでは親子間の信頼関係は成り立たない。自分は親に愛されている、親はいつも温かく見守ってくれると確信できる「心の安全地帯」を持っていることが、子どもが強く高く羽ばたいて生きるための必要条件である。

「心の安全地帯」とはアメリカの心理学者エリクソンが言っている基本的信頼感である。乳幼児期に安心できる養育者から一貫した愛を受けて育つと、周りの人間に対する基本的な信頼感を形成するとともに、自分への信頼と様々な能力への自信を身につけるといえるものである。



12月の主な行事予定



- | | |
|-------------------------|----------------------|
| 1日(木) 1・2年生期末考査④ | 17日(土) 3年生土曜講座 |
| 2日(金) 2年生修学旅行結団式 | 1・2年生県下一斉実力テスト |
| 3日(土) 1・2年生土曜講座 | 20日(火) 1・2年生三者面談開始 |
| 1年生小論文模試 | (~28日) |
| 3年生代ゼミマーク模試① | 22日(木) 大掃除 |
| 4日(日) 3年生代ゼミマーク模試② | 終了式 |
| 5日(月) 2年生修学旅行出発(~9日) | 3年生激励会 |
| 6日(火) 1年理科地学講座 | 24日(土) 冬季補習 |
| 7日(水) 1年生異世代交流体験学習 | 26日(月) 授業設定日 |
| 8日(木) 3年生三者面談開始(~16日) | 27日(火) 授業設定日 |
| 10日(土) 1・3年生土曜講座 | 28日(水) 冬季補習 |
| 12日(月) 歳末助け合い校内募金(~16日) | 29日(木) 3年生センタープレテスト① |
| 13日(火) 1年理科地学巡見 | 30日(金) 3年生センタープレテスト② |

歳末助け合い街頭募金(~14日)
場所：エレナ島原店
ダイエー島原店
ウィルビー



LHR「伝統・校風とは」を終えて

教務部 池田 祐三子

11月1日は島原高校の創立記念日です。今年は開校111年目になります。11月2日のLHRでは、「伝統・校風とは」というテーマで学級討議が行われ、活発な意見交換が行われました。討議内容の一部を紹介します。

①あなたが他県の高校を訪問し、島原高校を紹介することになりました。どのように島原高校の良いところをアピールしますか。またその理由は何ですか。

・長い間、その外観を変えていない校舎。他の高校にはない伝統を感じる。・今年も高総体で多くの優勝旗を獲得した部活動。県大会だけでなく、九州大会、全国大会でも素晴らしい成績を残している。・ひとめで島高生とわかる制服。気が引き締まる。・ソフトテニス部やサッカー部が行っている朝の掃除。さわやかな1日をスタートできる。

②島原高校で伝統的に行われていることで次世代につなげていきたいことは何ですか。

・新制高校になって以来変わっていない制服。このまま受け継がれるべき。・応援部による高総体壮行式の応援、体育祭のサークル。応援歌や島高節に伝統を感じる。・文武両道。19時完全下校。中身の濃い充実した部活動ができ、帰宅後学習に取り組める。・普段できない創作活動を全力でできる青楓祭。・集会の際、話を伺う前には正座で挨拶。相手への敬意や感謝の念を形に表せているから。・歓迎遠足の時の先生方の一発芸なども・・・。



人権教育

研修部 鈴木 直子

11月9日(水)LHRの時間に全校生徒が体育館に集まり、人権について考えました。今年度は「インターネットや携帯電話の利用にあたって

の人権問題」についてのドラマ『あの空の向こうに』を鑑賞しました。インターネットや携帯電話は非常に便利な道具ではありますが、使い方によっては人の心を傷つけてしまうことを生徒は感じとり、人とのふれあい、語り合いの大切さを再認識したようでした。

【生徒感想】

○自分がおもしろいと思ってやったことでも人が見れば、ひどいことだったり、誰かを傷つけたりすることもあるのだと思いました。インターネットや携帯電話は便利だけど、それを悪用する人もたくさんいるので怖いです。私も使用するときには他の人の気持ちを考えて使用していきたいです。(1年女子)

○ドラマを見て、ブロッケの話など本当に身近で起こりうるようなことばかりあって怖いと思いました。私も主人公のように、自分の考えを人に話すことが苦手だけれど、相手の顔を見て話した方が自分や相手の感情も伝わると感じました。(2年女子)

○インターネットでは不特定多数の人に情報を発信しているため、顔や名前がわからないことをいいことに好き放題、書き込む人がいるのが残念だと思います。逆に名前や顔がわからないからこそ、直接会ってコミュニケーションをとるときよりも相手を気遣うべきだと思います。(3年男子)

「高校生さわやか運動」

～あいさつは心の扉を開く鍵～

生徒会指導部 谷口 英次

11月は県内すべての高校で取り組む「高校生さわやか運動」の強調月間です。本校では登校時の挨拶運動、ゴミの分別活動、バス乗車のマナーアップ運動を行っています。挨拶運動は11月14日から1週間、1・2年生の規律委員、正副議長および生徒会常任委員で当番を決め、朝7時10分から7時25分まで校門に立ち、本校生徒や通学中の小・中学生、地域の購買部横のゴミ箱の分別状況を点検し、正しく分別し直す作業を行っています。こちらは12月まで行う予定です。バスの乗車マナーアップ運動は、通学で利用する便ごとに、任命された3年生の乗車マナーアップ係が中心になって、乗車マナーの向上に取り組んでいます。また、「高校生さわやか運動」を推進する標語募集に、本校から応募した作品「あいさつは心の扉を開く鍵」が採用されました。標語はのぼりに印刷されて県内の全ての高校で活用されています。



挨拶運動

心に響く人生の達人セミナー

～11月10日(木)体育館アリーナ～

教務部 荒木 良太

【講師】 佐藤 律子 氏
【演題】 「種まく子どもたち」
【講師紹介】

和歌山県橋本市在住。40代から童話を書き始める。1994年『けいこ先生のほけんしつ』で第14回カネボウ・ミセス童話大賞、『遊太』で東北電力「夢見る子供童話大賞パート2」大賞、『おーい夢』で第43回毎日児童小説優秀賞を受賞。



1997年次男を小児ガンで失い、学校などの依頼に応じて体験を語る活動を始める。「いのちの語り手登録バンク」主宰。編著書に『種まく子どもたち』(ポプラ社/角川文庫)、『空への手紙』(ポプラ社)、『いのちの灯台』(明石書店)など。2001年橋本市文化賞受賞。現在は和歌山県教育委員会委員、橋本市社会教育委員会議議長、橋本市岡潔数学WAVE理事を務める。

【要旨】

講師の佐藤律子さんは、次男の拓也君を小児ガンで亡くされた体験をもとに、命の大切さを訴える講演をされています。将来は「バイクに乗って日本一周したい」など、いかにも少年らしい夢を語り、反抗期でもあった拓也君が、闘病生活の中で成長する姿をお話になりました。生徒からは「同じ病気の人のためにも、自分が生きなければならぬと考えたところがすばらしい」、「死を目の前にして、自分のことを考えるのではなく、家族や友人に感謝の気持ちを伝えたところが印象に残った」などの感想が寄せられました。非常に難しいテーマでしたが、生徒は自分の生き方と重ね合わせて聴いていたようです。なお、セミナー前日には、佐藤先生の御本『種まく子どもたち』の読書会が図書館で開かれ、非常に有意義な時間を過ごしました。

【生徒感想】

- 日常のささいな事でくよくよしている自分は、なんて情けないんだろうと思いました。(1年男子)
- 何か生きる目標を見つけられたら、人は強くなれると思いました。(1年男子)
- 佐藤さんが言っていたように、誰かを喜ばせるために勉強してみようかなと思いました。(2年男子)
- 自分の最期の瞬間に「いい人生だった」と思えるような生き方をしたいです。(2年女子)
- 子どもを愛する親の強い気持ちに気づかされました。(3年女子)
- 何かのために生きていて、生きることに意味があるということを確認することができました。(3年男子)



読書会



読書週間の一環として、上記セミナーの前日に読書会を実施しました。読書会とは、事前に同じ本を読んだ者が集い、気づいたことや自分の考えを述べ合い、意見・感想を出し合い、内容理解を深めるためのものです。1年生から3年生まで21名が参加し、『種まく子どもたち』の編者である佐藤律子さんを囲み、「『種まく子どもたち』の『種』の意味するものとは?」「この本を読んで、今後の自分の生き方にどう活かしたいと思うか?」という2つのテーマについて意見交換を行いました。感じたことを自分の言葉で伝え、他の人の心に耳を傾けるという普段あまりない経験に、初めは恥ずかしそうだった生徒たちですが、すぐに慣れて活発な意見交換がなされました。佐藤律子さんも、高校生の素直な感想・意見をたくさん聞くことができたことと大喜びされていました。

長崎県高校生訪韓研修

民族衣装のチマチョゴリ



平成23年度日韓中高生交流事業として長崎県の高校生が、10月23日(日)から10月29日(土)の6泊7日の日程で韓国を訪問しました。この訪問団は、県内9つの公立の高校から推薦を受けた計50名(男子4名、女子46名)の生徒で結成され、本校からは2年生11名(男子4名、女子7名)が参加し、鶴田教頭も団長として引率にあたりました。ほとんどの生徒が初めての海外研修で、韓国の歴史文化に直に触れ、学ぶところが大きかったようです。特に、現地の高校訪問やホームステイを通して、同じ世代どうしの交流が深まり、貴重な体験になったようです。今回の訪問で得たことを多くの人に伝え、今後の日韓友好親善の架け橋になってくれることを期待します。

授業体験



【生徒感想】

- 日本と韓国の文化は、共通することがたくさんあったので、とても親近感がわきました。
- ホームステイ先のパートナーとは、言葉の面など大変でしたが、一生懸命に自分の気持ちを伝えてくれたり、私の話を聞いてくれたりして本当にうれしかったです。
- 韓国の学生のコミュニケーション能力の高さに驚きました。英語力をつけて、将来また韓国に行きたいです。
- この一週間で学んだ文化・歴史・交流などは、一生忘れることがないと思います。
- 本当に収穫が大きかった研修で、僕を大きく成長させてくれました。
- たくさんのお見学や体験ができたこの研修に参加してよかったと感謝の気持ちでいっぱいです。

韓国太鼓



部活動の主な成績

長崎県高等学校新人体育大会

○剣道部男子

団体の部	優勝		
個人の部	優勝	藤野 麗太	
	第3位	渡邊 賢人	



○剣道部女子

団体の部	優勝		
個人の部	優勝	山崎 瑠美	
	準優勝	阪本 皇子	

○レスリング部

団体の部	優勝			
個人の部	55kg級	優勝	伊藤 奨	
	60kg級	優勝	永石 洸	
		準優勝	前田 智之	
	66kg級	優勝	本多 正龍	
	74kg級	優勝	松阪 誠應	
	84kg級	優勝	佐藤 聖翔	
	96kg級	第3位	吉田 翔	
	120kg級	優勝	内田 匠	



○弓道部女子

団体の部	準優勝		
個人の部	優勝	松田 紗季	



○ソフトテニス部男子

団体の部 第3位

○体操部女子

団体の部 第2位



○ソフトテニス部男子

高校団体選抜県予選会
団体の部 第3位



○弓道部女子

九州高等学校弓道新人選手権大会
個人の部 第6位 松田 紗季

○放送部

九州高校放送コンテスト県大会		
アナウンス部門	優秀賞	長橋 紘子
朗読部門	優良賞	横田 千晶

○美術部

県高校総合文化祭美術展
優良賞 福井 美咲

平成23年度
租税教育推進校

○税に関する高校生の作文

島原税務署長賞	小林 悠
長崎県県央振興局長賞	植木奈緒子
島原税務弘報協議会会長賞	末吉 佐妃
島原税務弘報協議会優秀賞	楢 瑞希